

芦っ子協議会だより

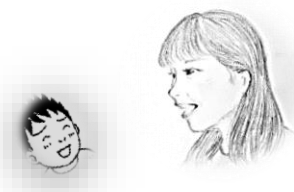
芦っ子協議会は、学校・家庭・地域が一体となり

第3号

地域総ぐるみで「子供たちの育ち」を支援する組織です。

連絡先 022-246-0858

編集責任者 榊井 裕



「心に届くあいさつ」をうながすもの —我が家の朝に見るヒント—

朝、階段のきしむ音が聞こえてきた。音が大きくなると隣に寝ていた息子は目を覚ます。2階から母親が下りてくるのを感じ、戸の方をじっと見つめる。開いた瞬間、「〇ちゃん、おはよう」とほほえみ近づく母親に、顔をしわくちゃにして「オー、オー」（「おはよう」の意）と元気にあいさつする。いつも一緒なのに、久々に会ったかのように大喜びする。毎朝のように。ときに、眠気が残る私も2人につられ、しばし3人のあいさつのかけあいでも一日が始まる。少なくとも、家内と息子の間には、互いに心に届くあいさつが成立している。

息子は重度の知的・身体障害者で、日常生活のほぼ全てに介助を要する。1歳程度の知能で、ことばの理解も発語も限られる。息子が生まれて数十年、母親は苦楽をともにしてきた。これまで何度か乗り越えてきた生死をさまよう病床でも常に看病し、励まし続けてきた。だからこそ、当たり前の日常に幸せを感じ、訪れた朝に共に生きる喜びを感じるのである。息子と母親の間には、愛情と信頼の関係がベースにあるのだ。

私たちが取り組むあいさつ運動でも、家庭では相互の愛情や信頼があり、地域や学校でもお互いへの思いやりや尊敬、友情等の心があってはじめて、互いに心に届くあいさつが交わせるのではないだろうか。

あいさつの奨励とともに、それをうながす心の醸成にも力を注ぎたいものである。 榊井 裕

月1回のあいさつ運動 一定着してきました

9月のあいさつ運動は、台風14号接近により実施できませんでしたが、10月18日と11月15日には、予定通りに3つの校門を中心にあいさつ運動を無事に実施できました。



10月以降のあいさつ運動では、前回（第1回）の反省を生かし、次のような改善を行いました。

① 参加者が校門前だけでなく周辺に分散して立つ。

児童に圧迫感を与えないためです。また、通勤通学の方とのあいさつも大切にしたいからです。

② 始める前に、参加者同士で自己紹介を行う。

志を同じくする参加者同士の心の交流が大事で、連携してあいさつ運動を展開したいからです。

③ 次の月のあいさつ運動日予告のポスターを町内会掲示板に貼る。

多くの方々に実施日を知っていただき、それぞれの立場で可能な協力をしていただくためです。

11月のあいさつ運動後の参加者による振り返りの会では、「今日は、子どもの方からあいさつされることが多かった」との感想が出されました。ちなみに、その場に残られた20名ほどの方のうち、3分の2くらいの方が同様に感じたとのことで、この運動が児童に浸透し定着してきていることが分かります。

皆さん、あいさつ運動日に限らず、可能な時に可能な方法で、今後ともご協力をお願い致します。

毎朝のあいさつ・見守り ありがとうございます!! シリーズ①



芦口小の地域には、毎朝、登校する子どもたちにあいさつ・見守りをしてくださっている方がいらっしゃいます。今回は、そのお一人武山みつ子さんにお話を伺いました。

武山さんには、18年前から毎朝百坂の上であいさつ・見守りを続けて頂いております。当時の百坂の交通量の多さから、子どもたちの安全のために始められたとのことでした。

始めた頃から子どもたちのあいさつはとても立派で、遠くから元気な声であいさつをする子どもも多いそうです。あいさつを続けることで、子どもたちと気持ちが通じ合うようになり、休むと

次の日には、「昨日どうしたの?」と心配してくれる子がいたり、中高生になってからも街中であいさつをしてくれる子がいたりして、とてもうれしいとのことでした。毎日となると大変なように思えますが、子どもたちから元気をもらったり、地域の方の温かい声かけなどの応援をもらったりしながら、自然と体にしみついて今まで続けてこられたそうです。

武山さんから子どもたちへ、「交通事故に気を付けて、友達と仲良く学校に通ってほしい。」「あきらめないで続けることがとても大切。」とのメッセージを頂きました。子どもたちへの温かい思いやりと毎朝の見守りに心より感謝申し上げます。お体を大切にされて、これからも元気にお過ごし頂ければと思います。



家庭での具体的実践 「ポイントは親の手本とほめことば」

★今回は、「あいさつ運動」の2つ目のスローガン、**家庭**でのあいさつ ⇒ 「ポイントは親の手本と ほめことば」について考えていきます。



ご自分のお子さんのあいさつについて、親として、どのように教えればよいか気になることはないでしょうか。子どものあいさつは「親の手本」と「ほめことば」が効果的であると言われていきます。成長に合わせて、次のようなことを実践されてみてはいかがでしょうか。

親の手本

- ① 家庭の中で「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「いただきます」「ごちそうさま」などを親が率先して言う姿を見せる。
- ② ご近所の人や知り合いに挨拶をしている姿を、子どもに見せる。
- ③ 挨拶を子どもと一緒にしたり、声かけをして挨拶のタイミングを教えてあげたりする。

ほめことば

- ① 小さな声や会釈だけでも、できたらほめてあげ、成功体験を積みかさねてあげる。
- ② できなくても、責めずに共感して、次につなげてあげる。

——— 心にとどくあいさつを一步進めるために ———
まずは、家庭で『あいさつは気持ちのいいもの』と
感じる機会をつくってみましょう。



次のあいさつ運動

1月17日(火)7:45から 行います。

お時間の許す方は、お近くの校門までお越しください。